



# 帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

## 日本の教育のよさとは

帝京大学小学校 校長 石井卓之

新年あけまして、おめでとうございます。本年も本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

AERA 2024.12.23に映画「小学校～それは小さな社会～」の記事が掲載されていました。これまでも、ネットニュース等で話題になっていた映画でしたが、改めて興味がわきました。山崎エマ監督は、イギリス人の父、日本人の母のもと、小学校時代を公立で過ごした後、中学からインター、アメリカの大学を卒業してニューヨークで働いていたころ、「よく働く」「時間を守る」「チームワークが上手」だとよく言われたそうです。そして、「私の『日本人』的なものが培われた場所は、6年間通った大阪の公立小学校しかないんですね。もしかして、世界が認める日本人の性質の素地は小学校にあるのでは？」と考へて、コロナ禍の直後の2021年4月から1年間、世田谷区の公立小学校で撮影を行いました。山崎監督も語っていますが、思った以上に反響があったのは日本上映に先んじて行われた各国の映画祭で、「自分たちの国でも、この教育方法を取り入れたい」という声が多く、日本でも話題になる教育先進国として知られるフィンランドでは、4ヶ月のロングランを記録したとのことでした。特に、困っている級友に進んで手を貸し、目標達成に向けて教師も一緒になって取り組む姿は、「個の尊重と他者への思いやりの両立」という新たな教育課題に頭を悩ませる北欧の教育者たちには大きなヒントとして受け止められているとのことでした。

私も12月末にシネスイッチ銀座で見ました。山崎監督の「日本の教育に光を当てたい。」「日本人は自分たちのよさに気づいていない。自信をもってほしいな、という思いも込めました。」や、「欧米ではまず隣の子と違うことを発言し、個性を出すことを学びますが、日本では集団の中で自分の役割を見つけ、みんなと協力し合うことを学ぶ。日本の『まずはみんなで話し合い』という合意形成の練習は悪くないのでは？」という言葉を実感できる場面が数多くありました。

私が特に印象的だったのは、6年担任の若手の男性教諭です。映像の中でも厳しめの指導をしており、「自分は恩師から厳しい中にも愛情のある指導を受けて今があるので、それを目指している。」と語っていました。しかし、学期の途中で保護者から指導が厳し過ぎると言われたと先輩教員に話をしている場面が出てきました。また、卒業後の職員室で「何度も、もうダメかなと思った。でも、多くの支えがあり今日を迎えることができた。」と、感想を述べていました。恐らく、映像には出ていない部分に子どもとのすれ違い、自分の指導への自信喪失など、苦悩の時間があつたことを感じました。働き方改革に逆行した朝6時前の出勤、定時を大幅に遅れた退勤、子どもが帰った後に自前で購入した自動掃除機による教室清掃など、映像を繋げるとこの先生の真面目さと熱い思いも感じました。しかし一方で、自分の理想に子どもをはめ込もうとしているのではないかという、若さの負の面も見て取りました。また、コロナ禍で止まっていた宿泊が再開された食堂の映像には、乱雑に脱ぎ捨てられた子どもたちのスリッパがありました。経験ある教員は、「私が初めに正しい置き方をしておいたので、気がついて、見て学んでほしかった。」「なぜ、揃えて置く必要があるのかについて意味を考えさせることが重要で、ただきれいに並べる指導をするのではない。」など、同じ学年の若手教員への深い指導も入っていることを感じました。映像と自分の経験を重ねると、きっと色々な見方や考え方ができるよい映画だと思います。

中東の国では、日本の掃除の時間が評価され取り入れられています。また、特別活動は「TOKKATU」としてエジプトの小学校に取り入れられ、実施している小学校の人气が高まっているとのことでした。本校でも、縦割り活動や特別活動、学校行事を通して、子どもたちに責任をもたせ、自分の頭で考えながら活躍の幅を広げて、「なりたい自分になれる」ように機会を提供していきます。教師はその支え手として、全力で支援をしていきます。

## 職員室の窓

新しい年が始まりましたが、新年の抱負は考えましたか？大小に関わらず抱負を考えることは自分を成長させます。高い目標を達成するためにはその過程で小さな目標を立てていくことが大切です。達成感を味わうとともに、現状の達成度を確認することができます。小さな一歩に見えても、それは目標達成への大きな一歩です。



《教諭 Douglas Harper》



《事務 石川佐和美》

昨年の6月より、帝京大学八王子キャンパスから小学校事務室へ配属になりました石川佐和美と申します。業務に携わって半年が経ち、毎日子供たちの可愛い笑い声や頑張っている様子に癒されています。大学とは違う業務にバタバタしておりますが、早く皆様のお役に立てるように頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。